



「スポーツの秋！元気にポッチャで活動中」

バプテスト心身障害児(者)を守る会

# 愛の手を

第205号

発行責任者  
 社会福祉法人 バプテスト心身  
 障害児(者)を守る会  
 重症心身障害施設 久山療育園  
 重症児者医療療育センター  
 理事長 宮崎 信義  
 編集責任者 中村 晴光  
 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869  
 ☎(092)976-2281  
 FAX (092)976-2172

## 「久山療育園設立者ー3人の先生方の思い出」

監事／バプテスト東福岡教会員  
 樋口重登

久山療育園の設立は、バプテスト教会の3人の牧師先生が集い、各自千円ずつ出し合い、設立の理念について話し合われたのが出発点と聞いております。一人目の先生は、当法人の叶義文理事のお父様であります叶昌全先生(当時、大牟田バプテスト教会牧師)です。当教会(東福岡教会)の夜の集会で講演され、久山療育園の意義と理念について話をされました。

地上の動物の中で人間のみが唯一神様の形につくられたことを力説されていきました。私には心身障害者の方々の尊い存在への気づきを教えられた、大きなことでした。

次の先生は、初代理事長に就任された川野直人先生(当時、田隈バプテスト教会牧師)で誠実なお人柄で、一番の思い出として残っていますのは、たしか一歳くらいの障害児のお子さんを両手で抱かれ、ハラハラと涙を流されておられた事でした。

同じように一歳くらいの子障害児のお子さんを抱いていた宮本要先生(当時バプテスト東福岡教会牧師)が、川野先生と自分を比較され、あまりにもの違いに反省さえなさっていた姿を思い出します。

宮本要先生はバプテスト東福岡教会の牧師を辞任され久山療育園の初代事務局長に就任されましたが、教会での最後の説教が一番印象に残っています。牧師を辞任して、久山療育園の事務局長に就任することは、大変なことであるけれども「イエス様の十字架の元に立てるだけでも満足です。」という言葉を残して去られました。

私は久山療育園のお役を頂き、一番の難いと思えます事は「ミット・レーベン」の言葉に出会えた事です。周知のようにこの言葉はアフガニスタンでの中村哲先生の働き、又、北九州市の奥田知志先生のホームレスの方々への支援の働きにつながる言葉ですが、私の現在の「職場」「家庭」においても通じる言葉であると感謝しています。

理念と展望

「創立45周年の今を考える」

理事長 宮崎 信義

1976年9月に開園に導かれて満45年が経過しました。通常の事業体では、創設時の黎明期から安定期に入り更に向上期に至る過程だと思えます。久山療育園重症児者医療療育センター（「久山療育園」「センター」と略）では、2008年8月に創立30周年以来の「改築構想委員会」の協議を経て全面改築（新築）が完成されました。ミットレーベン・ネットワーク（「コニー友の会」）や保護者会、地域の方々の支援に負うところも多く、深く感謝しています。全面改築の直後に発足した「在宅支援プロジェクト」も、第1段階・2009年度～2015年度（施設全面改築から在宅支援センターの開設）、第2段階・2016年度～2020年度（在宅支援センターの拡充と新たな事業展開）検証、第3段階・2021年度～2025年度（重症児者の家族と共なるコミュニティ形成）計画へと進み、第1段階では2015年

7月に「在宅支援センター」及び「重症者ホームひさやま」が事業を開始され、医療病入院と家庭生活の中間に位置する居住生活空間で、毎年深化が図られています。現在は第3段階の初年度に当たります。ご家族と共にいつも向き合っています。重症心身障害児（者）も年長化し高齢化されています。「在宅支援プロジェクト」の方向性を、「ご家族と共なるコミュニティ形成」に視点を置いています。ご家族や支援者、地域の必要に聴きながら進めていきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症の危機 昨年の同時期に発刊された201号では、理念と展望「危機にあっても創立理念に堅く立つ」という題でお示ししました。以来1年間、まさに危機にあっても創立理念に堅く守られてきたと思います。「在宅支援プロジェクト」の途上にある今、2019年末に新型コロナウイルスの世界的蔓延

という危機が生じ、第5波が2021年7月下旬から8月にかけて猛威を振るい、その原因は8株を中心にした変異株による感染で、危機はいつ果てるとも知れない状況です。しかし、創立理念「設立の目的・運営基本方針」にもあるように、神様が建てられた久山療育園の施設事業は「打ち倒されても滅ぼされない」（コリントの信徒への手紙二 4章9節）と信じています。まさに新型コロナウイルス感染症対策は、重症心身障害児（者）、家族、職員、ボランティアを守る対策です。

また恐るべきは無関心や風化です。久山療育園ならではの事業体・運動体の活動の復旧を感染対策と共に視野に入れなければなりません。

創立理念を想起して

設立の目的に「重症心身障害児に愛の手を」と掲げられています。この目的に従って在宅及び入所重症児者のニーズに聴く診療計画と実践を継続して行きたいと思えます。また「重症児が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置付けられることを願う」ことから「在

宅支援センター」への医療生活支援計画が立てられ継承されています。「久山療育園は単なる収容施設ではなく、新しい福祉社会（福祉共同体）づくりの拠点である」という決意から、福祉共同体の実現及び地域医療連携を心掛けています。「運営基本方針」からは、「久山療育園はキリストの福音を土台として運営されなければならぬ」が掲げられ、これまで45年間に及ぶ「ミットレーベン・ネットワーク」や500教会にも及ぶ諸教会の支援を受け、連携して参りました。「療育基本方針」から、「久山療育園は、病院であり学校であり家庭である。われわれは対象者を技術論的ではなく、全人的にとらえる。そのために、それぞれ最善の職務的協力を進めることによって、その専門的領域の働きを全うしなければならぬ」と告げられて、「久山療育園の療育」の再確認と医療マインドに基づく生命の尊厳を支えること、QOL（生活の質・生命の質・人生の質）を重視して参りました。

「医療的ケア児支援法」の制定 今年2021年（令和3年）6月11日に「医療的ケア児支援法」（略称）が制定されました。その骨子は、「医療的ケア児の支援に関する保健、医療、福祉、教育等の連携の一層の推進について」（平成28年6月3日関係府省部局長連名通知）を地方公共団体等に発出し、連携体制の構築を推進すること。平成28年5月25日成立・同年6月3日公布の「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法の一部を改正する法律」において、地方公共団体に対し、医療的ケア児が必要な支援を円滑に受けられるよう、保健、医療、福祉等の各関連分野の支援を行うための連携調整を行うための体制整備に関する努力義務を規定（児童福祉法第56条の6第2項）（本規定は公布日施行）されたこと等です。「医療的ケア児」については、厚生労働

終息後は、久山療育園が大切にしてきた在り方（創立理念堅持、開園祭、「重症児者と共

に」ある医療療育、クリスマス等の諸行事、朝礼時の賛美友の会との協働・ワークキャンプ・ボランティア活動）が再開されることを願います。

省「医療的ケア児の支援についての課題と方向性」(平成28年5月)にも示されましたが、重症心身障害児(者)については先人の努力によって「医療的ケア」が不可欠であることが受け入れられています。その他の病児や障害児については知識や対応が不明確でした。平成28年以来行政が重視して来られた「医療的ケア児」は、重症心身障害が約70%、重症心身障害以外の医療的ケア児が約30%で、年々増加していると報告されています(小児科学会で調査)。障害や疾病の特性から、医療・福祉・教育の連携が必要とされ、改正児童福祉法に対応の必要性について明記されています。

再び申し上げますが、新型コロナウイルス感染症終息後は、久山療育園が大切にしてきた在り方(創立理念堅持、開園祭、「重症児者と共に」ある医療療育、クリスマス等の諸行事、朝礼時の賛美、ミットレーベン・ネットワークとの協働・ワークキャンプ・ボランティア活動)が再開されることを願います。

また糸賀一雄先生が残した「この子らを世の光に」という言葉を想起しつつ、障害者の生命の尊さと輝きを大切にしたいと願います。創立45周年を迎えて、新型コロナウイルス感染症対策では重症心身障害児(者)やご家族、職員、ボランティアの方々、地域の方々を御守りできることを主眼としつつ、創立50年に向けて創立理念の継承・実現を心掛けて参りましょう。

言葉の尊さと輝きを大切にしたいと願います。創立45周年を迎えて、新型コロナウイルス感染症対策では重症心身障害児(者)やご家族、職員、ボランティアの方々、地域の方々を御守りできることを主眼としつつ、創立50年に向けて創立理念の継承・実現を心掛けて参りましょう。



「バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会理事会」

理事長 宮崎 信義

「バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会」(バ福協)は、第1回研修会が1984年8月3(4)日に神戸市でバプテストめぐみ会(バプテスト・ホーム)が担当して開催されました。以来37年間の歴史を経て、日本バプテスト連盟に所属するキリスト教社会福祉事業に従事する法人の連絡協議会や職員研修会が実施されてきました。残念ながら職員研修会(8月第1週の月曜日(火曜日)は、新型コロナウイルス感染症のために2020年に続いて2021年も中止されることになりました。

2013年3月4日の理事会で改定された「バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会規約」では以下のように目的や意義が語られています。(目的)第3条 本会は、日本バプテスト連盟に関係し、社会福祉の法人格を有し、社会福祉事業を行っている諸団体の親睦、情報交換、事業運営等の啓蒙と充実を図るとともに宗教法

人日本バプテスト連盟並びに日本バプテスト宣教団等との折衝の窓口となることを目的とする。(事業)第4条 本会は、前条の目的達成のために次の事業を行う。①情報の交換、②講習会、研修会、研究会等の実施及び幹旋、③その他、本会の目的達成に必要な事業 等でした。

2021年3月11日・ZOOM会議

ZOOMによるオンライン会議でしたが、37年間の歴史を継承する意味で大切な協議が行われました。協議会事務局を担当して下さる「キリスト者奉仕会」、叶義文理事長を始めとする法人の皆様へ感謝申し上げます。参加した法人は、北からバプテストめぐみ会(北白川保育園・バプテストホーム)、バプテスト心身障害児(者)を守る会(久山療育園)、キリスト者奉仕会(大牟田恵愛園・恵愛ワークセンター・障害者生活支援センター「ハー

ツ」の3法人9名でした。協議事項は、①前回理事会報告、②2021年度『第37回夏期職員研修会』について、担当法人からオンライン研修は困難との報告があり研修会は中止と決議された、③2021年度は延期し、2022年度は相愛会が担当し開催する予定で進めることに決定、④各法人の状況報告、⑤会計報告、⑥2021年度バプテスト福祉デーについて(担当法人は、バプテストめぐみ会)。

2021年3月11日・ZOOM会議

ZOOMによるオンライン会議でしたが、37年間の歴史を継承する意味で大切な協議が行われました。協議会事務局を担当して下さる「キリスト者奉仕会」、叶義文理事長を始めとする法人の皆様へ感謝申し上げます。参加した法人は、北からバプテストめぐみ会(北白川保育園・バプテストホーム)、バプテスト心身障害児(者)を守る会(久山療育園)、キリスト者奉仕会(大牟田恵愛園・恵愛ワークセンター・障害者生活支援センター「ハー

2021年8月3日・ZOOM会議

バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会(バ福協)理事会が2021年3月11日(月)に続いて8月3日(火)にZOOM会議方式で行われました。参加した法人は、北からバプテストめぐみ会(北白川保育園・バプテストホーム)、バプテスト心身障害児(者)を守る会(久山療育園)、キリスト者奉仕会(大牟田恵愛園・恵愛ワークセンター・障害者生活支援センター「ハーツ」)の9名でした。欠席された法人は、相愛会、福岡白百合会です。通常は、バプ

テスト社会福祉事業団体の職員研修の際に開催されますが、新型コロナウイルス感染症の為に、2020年に続いて2年連続で研修会は開催できませんでした。

協議された議案は、①前回理事会議事録承認に関する件、②第37回2021年度研修会について(2022年に延期)、③各法人の状況報告、④2020年度年会費(10,000円/年)、⑤2022年度「バプテスト福祉デー」ポスターの担当法人(相愛会)。

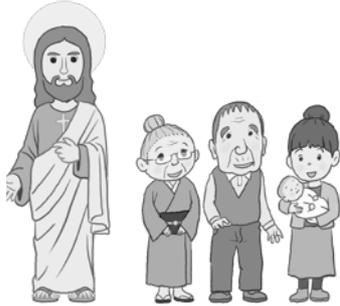
代わりに

キリスト教社会福祉事業は、世界的には中世以前から修道院において医療や教育と共に実施されてきた先駆的な聖務としての歴史があります。プロテスタント諸教派でも、社会福祉事業は継承されています。日本バプテスト連盟に所属する社会福祉事業団体6法人(保育福祉・障害児者福祉・高齢者福祉)も、キリストの福音(ふくいん=喜ばしい知らせ)を土台として事業を実施しています。

キリスト教社会福祉事業を

導く聖句として、次の言葉をお示しします。

「はつきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれられたことなのである。」(マタイによる福音書25章40節)、「互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネによる福音書13章34節)、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」(ローマの信徒への手紙12章15節)。



病気のからだから人の

「気管支と鼻の切っても切れない関係」

センター長/理事 岩 永 知 秋

をもたらしします。

■風邪(感冒)

今回は気管支と鼻のお話です。

気管支と鼻というと、息を吸ったり吐いたりする点では共通しているようですが、一見別物のような感じをお持ちではないでしょうか。でもこの2つには、さらに思った以上に密接な関係があるので、大部分の皆さんは風邪を経験しますよね。風邪の症状にもいろいろあります。鼻水や鼻づまりなどのいわゆる鼻かぜ(鼻炎)、のどが痛くなったり、声がかすれるなどの風邪(咽頭炎、喉頭炎)、そして咳や痰が出る気管支炎の症状などが、それぞれ単独に、または一緒に、あるいは段階的に起こることもあります。からだのだるさ、発熱、食欲の低下など、全身の症状を伴うことも少なくありません。このように、風邪、いわゆる感冒の多くはウイルスが鼻やのど、気管支に感染(かぜウイルスと呼ばれます)して、症状

■気管支と鼻の構造

のどの奥の喉頭、咽頭と呼ばれる場所までを上気道、気管から下部の気管支や細い気管支を下気道と呼びます。鼻は鼻腔と副鼻腔とに分けることができます。鼻腔(びくう)はどこにあるか分かりますね。でも副鼻腔とは何でしょうか。鼻の周りに空洞がいくつあるのが副鼻腔です。片側に4個ずつ、合わせて8個の空洞があり、それぞれ前頭洞(ぜんとうどう)、篩骨洞(しこうどう)、上顎洞(じょうがくどう)、蝶形骨洞(ちようけいこつどう)と呼ばれます。空洞が頭にあると頭の重みが軽くなり首への負担が軽くなります。また、頭に何かがついた時の衝撃も軽くなります。さらには、声を響かせる、共鳴させる働きもあるといわれています。換気、つまり私たちが呼吸をするときの空気の流れ

替えにかかわるほか、これらの空洞の内面はせん毛と呼ばれる細かい毛がたくさん生えた細胞でおおわれており、入ってきた異物を排除する働きがあります。

■アレルギー性鼻炎と気管支喘息

私が専門とする気管支喘息でも、アレルギー性鼻炎と一緒に合併する人が、わが国では60〜70%近くいると報告されています。鼻の粘膜と気管支の粘膜はとも性質が似ており、したがってアレルギーの炎症が双方に共通して起こるものと考えられています。これを「One airway, one disease」といいます。某国の「一帯一路(One belt, one road)」に似た表現ですが、政策ではありません。空気の通る道筋には共通の病気が生じうる、という意味です。喘息はアレルギーだけでなく、好酸球という白血球が粘膜に炎症をもたらすもので、この点アレルギー性鼻炎と一致します。好酸球による炎症に対する治療は、局所へのステロイド薬投与です。アレルギー性鼻炎に対しては

ステロイド薬の点鼻、ないし他の抗アレルギー薬の投与、喘息に対しては吸入ステロイド薬が治療の柱となります。

■副鼻腔気管支症候群

副鼻腔と気管支に起こる共通の炎症を「副鼻腔気管支症候群」と呼んでいます。これはアレルギーではなく、慢性的細菌感染症の性質を持っています。膿性鼻汁(黄色い鼻水)、鼻づまりなどを伴い、一般には「蓄膿症」として知られています。これに、咳、痰、呼吸困難などの気管支の症状が加わります。この炎症には白血球のうち好中球と呼ばれるものが関与します。

そもそも気管支は気管から肺に至るまで20回近く2分岐しますが、末梢、つまり肺に近づくにつれて細くなっていきます。気管支拡張症では、繰り返し炎症によって気管支の修復が不完全となり、細い気管支が拡張してしまうのです。そしてこれは副鼻腔から流れ落ちる膿性鼻汁(これを後鼻漏といいますが、気管支に流れ込んで炎症を生じます。慢性副鼻腔炎と慢性の気道炎症とが合併したものを、副鼻

腔気管支症候群と呼んでいます。気管支拡張症では半数近くに慢性副鼻腔炎があるようです。

わが国では日本人により発見、命名されたびまん性汎細気管支炎が有名です。難しい名前がついていますが、昔は日本にも一定程度の患者さんがいました。欧米には基本的でない病気で、わが国やアジアの一部の国に特有のもので、この病気はエリスロマイシンを代表とするマクロライド系と呼ばれる抗生物質の少量長期投与によりその数は激減しました。このくすりは細菌をやっつける作用(抗菌作用)ではなく、気管支粘膜での免疫を強化したり、水分・電解質のバランスに作用することにより、その効果をもたらすものと考えられています。重症心身障害など嚥下機能に問題が生じ、誤嚥が起こる状況では、微小誤嚥で起こるびまん性嚥下性細気管支炎があります。この病態にも一定程度の効果期待されます。

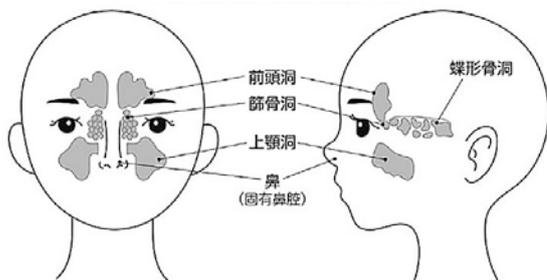
■好酸球性副鼻腔炎(指定難病306)

最近増加している難治性の

副鼻腔炎で、今のトピックです。主として篩骨洞(目と目の間のところ)と呼ばれる副鼻腔に病変が起こります。喘息との合併が多く、副鼻腔粘膜やポリープ(鼻茸《はなたけ》と呼ばれる)に好酸球という白血球の一種が浸潤します。これも「One airway, one disease」の一つとして挙げられ、起こっているのはアレルギー性炎症です。鼻茸は水膨れのような袋がいくつも鼻の中にできて、充満していくものです。鼻汁、鼻閉とともに嗅覚障害(お鼻がしない)が特徴です。喘息患者の50%程度に好酸球性副鼻腔炎が合併し、慢性副鼻腔炎の20%程度に喘息が合併します。また、アスピリン不耐症と呼ばれる、アスピリンなどの解熱鎮痛剤で強い喘息発作を起こすものも、この鼻茸が合併することが多いとされます。この場合の喘息も重症、つまり治療抵抗性の喘息です。わが国には2万人ほどの患者さんがいるものと推定されており、最近、難病の一つに指定されました。このアレルギー性炎症は耳にも慢性中耳炎を起こすことがあります(好酸球性中耳炎)。

■おまけの話：留学ごぼれ斬

卒業後医師になって5年後の1985年から2年3か月間、私は米国に留学しました。留学したら苦労するのが語学。先輩から聞いた、ある医師の体験談。アメリカに留学した際のエピソードです。車で田舎道を走っていたら迷ってしまい、いつの間にか夜になっていたそうです。あたりは山の中で真っ暗、人家もなく困っていると、やっと一軒の家の光がぼつんと見えました。地獄に仏、とはこのこと。早速車をその家の前に止め、家のドアをノックしました。「ヘルプミー」と簡単に言えばよかったものを、つい教養と日本人のプライド(言葉は文章にしくなくちゃ、と思ったのです)が湧いてきて、口をつけて出てきた言葉は、「Can I help you?」(お助けしましょうか?何かご用ですか?)。でも、本当に言いたかったのは?そうです、「Can you help me?」(助けてくれますか?)だったので、「私」と「あなた」がひっくり返っていました。いろいろなお店で店員から「Can I help you?」よく聞かれますが、それが頭の中にあっただけでしょ





藤田 英彦

苦しんでいる人たちは幸いである。彼らは慰められるであらう。平和をつくり出す人達は幸いである。彼らは神の子と呼ばれるであらう。

(マタイによる福音書第5章)

一昨年秋、中国に始まったと言われるコロナ感染者は、9月20日現在、日本で約170万人、世界で約2億8千万人、死者は日本で約1万7千人、世界では何と500万人近くの人々の生命が失われている。このコロナ禍の対応を巡り、日本では菅政権が崩壊したが、世界でも直接間接的に大小国の政権離脱を余儀なくされた国々を散見する。

ぎすぎすする暗い世の中にあつて、ひと頃世界中の人々の心洗われ、明るい思いに導かれた日本人の作った歌の話が、9月21日午前9時〜11時45分のNHK・BSで放映された。

物語は、1960年前後、A級戦犯であった岸信介氏が、朝鮮戦争勃発を機にマッカーサー総裁となり、多くの猛反対を

押し切つて「日米安保条約批准」を強行。これに反対するデモで、国会突入の東大生、樺美智子さんが、機動隊とのみみ合いで死亡するという痛ましい事件があり、その後誕生した池田勇人内閣の「高度成長政策」による好景気に続いて、1964年10月には東京オリンピックが開催され、オリンピックの景気に湧いたが、一方では岸信介首相の弟、佐藤栄作氏が首相就任。「米原潜・佐世保入港反対デモ」、佐藤首相が日米安保条約批准のために訪米する事を阻止するための、羽田空港大規模デモやベトナム反戦のデモが、毎日のように続いていた頃に、神戸YMCA主事の青年が、単身フィリピンに遣わされ、先の第二次大戦(大東亜戦争)に於いて、日本の軍隊が、アジアの市民(特に子どもたち)に行った悲惨な行為に対する「戦争責任」というより具体的な「戦後責任」を果たそうとして苦闘した姿が映し出された。

彼は、単身フィリピンルソン島に渡り、ルソン小学校近くの荒野を拓いて、バスケットボールコートを作ることを託される。始めは珍しがられていたが、彼の開放的な明るい性格は、現地の子ども達の心を打ち解けさせて、遠巻きに囲んでいた子ども達もだんだん近寄ってきて草抜きを手伝うようになる。更に親しみのしるしとして、戦争中に親が日本兵から教えられ

た日本語の片言の「戦時中の国民歌謡」を歌い出した。彼は驚いて「この歌は戦争中に、日本軍が勝つように、と歌った歌だから止めて欲しい」と懇願。白けたフィリピンの子どもたちの大写しの顔の後、次に登場したルアダという青年がそれ迄も決して彼らの親しそうな交わりに参加せず、遠くで冷たい顔をしていたが、ついに「俺の家族は、戦争中に日本兵に皆殺しにされた。」と叫んで取っ組み合いになった。

その後、その青年が握っていた血で汚れた写真が青年の家族であることを知り、何度も謝りに行くが会ってもらえず、その時を機に村の若者たちも遠ざかるようになる。

私も「中国で平和に過ごしていた村に、日本軍の兵隊が突然やって来て、よく調べもせずに、スパイ活動をしている」として容疑者の家族全員を見せしめと称して広場に連れ出し、村人たちの面前で平然と銃で撃ち殺したり、日本刀で切り捨てたりしていた」という話を聞いていたが、その事実を目前にして茫然とした彼は、自分ではないが「贖罪」の意を込めて、猛然とスコップを使って土地を翻らし、鎌を使って茂った草を刈る作業を始めた。然し、それでも下の青年は許そうとしない。そのうち、草刈鎌が大きな石に当たって持ち手がおれて、剣先が掌に突き刺さり

怪我をするがひるまず彼はシャツを割いて縛りながら作業を続けた。更に彼は軍手を付け、荒地の草をむしった。村の若者たちは最初は遠く囲んでみていたが、一人、二人と参加してニコニコしながら道具を使って土地を固めてようやく一面のバスケットコートが出来あがった。

その最後の段階で陰で見ていた例の青年が現れ主人公と握手し抱き合いお互いの肩を叩き、祝福し合つて共に作業を始めたが、その光景をNHKのカメラが捉え描写しており感激した。

加えて、作業が終わつて夕べに主人公の青年は、ピアノを模索しながら叩いており、注意してよく聞くと「幸せなら手をたたこう」の曲だ。後に歌手の坂本九が東京オリンピックで歌い、全世界に翻訳されて世界で愛される歌になるまでのエピソードを偶然見たのでご紹介した。

私も東京恵泉教会牧師の頃、NCC(日本キリスト教協議会)に関わり、関西若手のリーダーの木村さんと、集会等でお会いしたことがある。

また私の西南時代の同級の友人、戸上信義宣教師がブラル活動16年を期して退任することになり、連盟理事会から命じられ、日本バプテスト連盟を大法として、ロンドリーナのバプテスト連盟に挨拶に行き、公式行事が終わつた後で戸上君に誘われ、イグワスの大滝を見てアルゼンチンに行き(もちろん自費で)ブエノスアイレスの対岸が見えないほどのジブラルタル大河畔のレストランに入って注文する前に「ハボン?」と聞かれ、頷くと暫くしてレジのボーイが素晴らしいテナードで歌い出した。続いてシェフとおぼしき男性が現れ、堂々たるバリトンでその歌に和して歌い始めた。その歌はよく聞くとタンゴではなく、「幸せなら手をたたこう」ではないか。これも忘れられない思い出である。

この当時の青年は、木村利人さんという名前で、現在82歳になられるが、早稲田大学文学部特任教授として人間の成長徳育関係で教鞭を取つておられ、お若い頃には神戸を中心としたYMCA関西方面で、特にアジア諸国との友好関係について優れたお働きをされ、50代の頃はジュネーブに滞在し国連の人権関係の働きをもされたと聞く。

その木村利人さんが、NHKのテレビに向かつて「どんな理不尽な、困難な状態で生まれても、愛し合う希望に生きれば、幸せになれる」と語っていた。

# ミットレーベン・ネットワークからのお知らせ

## 久山療育園を支援する 「エプロン・プロジェクト」ご協力のお願い

皆様、長引くコロナ禍の中、いかがお過ごしでしょうか。私たち重症児者と共に生きる「ミットレーベン・ネットワーク」の活動も、昨年に続いて街頭募金やワークキャンプも中止の状態です。久山療育園でも感染状況に応じた予防対策を行っていますが、フィジカルディスタンス (WHO) によってボランティア受け入れに制約が生じ、職員の方々の負担も大きくなっており、疲れが出ていないか心配です。

そんな中でも、何か協力できることはないかとお尋ねしたら、食事の際に利用者さんが使用する「エプロン」などが不足しているとのことでした。そこで、「ミットレーベン・ネットワーク」では、フェイスタオル(新品)の献品、あるいはエプロンの製作を呼びかけることにしました。どうぞご協力をよろしくお願い申し上げます!!

\*エプロンは1枚ずつでも、ゆっくりでも結構です。縫ってお送り頂けますとたいへん助かります!!

\*縫うのがむずかしい場合は、色柄のフェイスタオル(新品)だけでもお送り頂けますと幸いです!!

(レターパックや宅配便で下記まで※)

### ◇送り先・問い合わせ

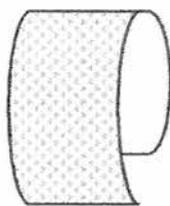
▷ 〒 814-0015 福岡市早良区室見2丁目 11-22 西南学院神学寮 101

田中敦子 (運営委員: 会計) 090-5920-1483

maranatha2013css@gmail.com

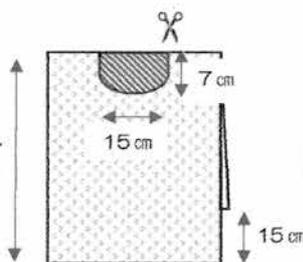
### \*ひさやま・食食用エプロンの作り方\*

色柄のフェイスタオルを  
15cmくらいずらして  
二つに折る。

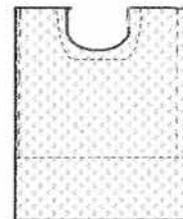


45 ~  
50 cm

えりぐりを切り取る。

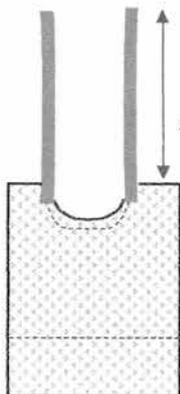


えりぐりをぬう。ふちを中  
に折り込んでほつれない  
ようしっかりと。

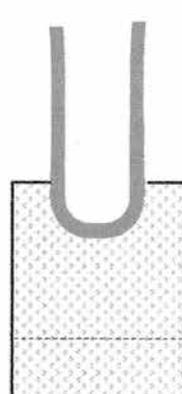


はじめに折り返して  
2枚になっている部分  
の周囲を縫い止める  
(まつっても可)

ひもを両肩  
にしっかり  
ぬいつける。  
長さは肩か  
ら 20 cm。



または ▷



バイアステープ(帯  
状の綿布でも)で、  
えりぐりをぐるっ  
とくるんでもいい。

およそ 100 名の利用者さんが、  
洗濯しながら毎日使われます。  
何枚あっても大助かりです!!  
ご協力のほどよろしく  
お願いいたします♡

# 45年のあしあと

看護部長 / 吉本法生



城崎仁郎先生の思い出  
6月30日に城崎先生の訃報が旧職員から伝えられました。

城崎先生は私が久山に入職した昭和60年から園長先生を務められ平成6年3月に退任されました。整形外科医で豪快な面があり紙カルテに記録されるときはとても大きな字で記録され職員が戸惑う面もありました。ただ利用者には優しくいつも笑顔で接せられ、手を引いて歩いたり、時には初代看護部長と2人でバリカンを持ち利用者の散髪を行われていました。男性職員だけの飲み会や、職員の親睦のボーリング大会なども快く参加してもらいました。カメラが好きで何かあるとすぐ写真を撮られ皆にプレゼントされていました。また、こけしを収集されていて久山を辞められるときにはすべての職員にこけしを配られていたことを覚えています。



著書「だめでもともと」扉写真

ある時、突然私に久山での骨折の症例を集めなさいと言われ、別府であった学会で発表させてもらったことを思い出します。そのときに、会場でだれが一番に骨折を発見していますかと質問がありその時私が、「スタッフです」と答えたことを褒めてもらいました。  
先生の100歳の誕生日に何人かの職員でお祝いに行きました。葬儀には参列できませんでしたが頂いたこけしや当時の研修で使ったスライド映写機を見ると先生を思い出します。

## ぎやらりい

コロナの毎日でも、園内の廊下や壁には、しっかりと季節を感じさせてくれる、利用者さんの元気な活動の足あとがたくさん！どれもダイナミックでアーティスティックで私たち職員も励まされています。なかなか外部からご来園頂けない中、その一例をご紹介します。しばしお楽しみくださいね。(12P「通所でがんばっています」でも詳しくご紹介しています。)



ご協力ありがとうございました

(2021年6月1日～8月31日) 敬称略

【法人】

一般献金

安部聖子、飯田節子、磯寄佳果、堺太郎、堤秀幸、日本バプテスト連盟恵キリスト教会、延岡キリスト教会、早川寛、伴敦子、久山療育園手作品売上、平川博・成、豊前キリスト教会、宮内千鶴子、山口正夫、山田俊介、匿名

(以上3, 148, 850円)

【重症者ホーム】

一般献金

自動販売機売上献金、井手伸昌、久山療育園献金箱、又野洋子、守田孝子

(以上154, 135円)

【施設】

一般献金

田中節子・由美、寺床亜沙美、林俊明、ひかり棟利用者一同、久山療育園保護者会、福岡南教会婦人会、松尾貴光、めぐみ棟利用者一同、山本三佳

(以上390, 000円)

献品

川崎バプテスト教会(タオルエプロン)、九州納豆組合マルキン食品(納豆)、鮫島経男(フェイスタオル)、戸島栢子(カステラ)、日本バプテスト連盟恵キリスト教会(タオルエプロン)、秦教子(紙パンツ)、林香代美(はがき他)、久山療育園保護者会(おしぼり)、平川成(手作り品)、福

岡女学院大学山之内ゼミ(手作りオルゴール)、福田さとみ(タオル)、森岡智恵子(枕カバー他)、安井洋子(切手他)、山口久美(はがき)、山口英明(はがき)、山口正夫(はがき)、山崎和樹(はがき)、芳岡勇(帽子)、匿名(梨)

(以上60, 014円)

献金申込先

- 《郵送》  
社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会  
〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869  
久山療育園重症児者医療療育センター内  
☎(092) 976-2281(代)
- 《郵便振込》郵便振替【01720-8-24404】  
名義：バプテスト心身障害者を守る会
- 《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普71888  
名義：バプテスト心身障害児(者)を守る会  
理事長 宮崎信義
- 《ホームページ》  
当センターホームページから、クレジットカードによる寄付が可能となっています。「寄付金のお願い」より開いて下さい。また、郵便局振込用紙もパソコン画面よりダウンロードすることができますので御利用下さい。  
個人、会社共に免税の対象になります。  
メール：hisayama@hisayama-smid.jp

2021年度クリスマスについて

12月15日予定の「入所クリスマス」、同じく16日予定の「久山療育園クリスマス(燭火礼拝・聖歌隊)」については、現在その実施と開催形式について検討中です。

大変恐れ入りますが、ご案内までしばらくお待ちくださいませ。

なお、通所クリスマスについては、通常の活動の中で曜日ごとに実施する予定です。



メモ帳

【7月】

- ▽7日 七夕行事
- ▽12日 臨時感染対策委員会、久原財産区訪問
- ▽13日～14日 夏祭り
- ▽15日 救急蘇生法研修
- ▽20日 福岡特別支援学校終業式
- ▽30日 誕生会

【8月】

- ▽3日 バプテスト社会福祉事業団連絡協議会(Zoom)
- ▽11日 臨時感染対策委員会
- ▽20日 誕生会
- ▽27日 第3回理事会

【9月】

- ▽1日 福岡特別支援学校始業式
- ▽7日 認定看護師研修運営会議(Zoom)
- ▽9日 看護師コース研修会(Zoom)
- ▽10日 誕生会
- ▽13日 臨時感染対策委員会
- ▽17日 なないろの会(敬老のお祝い)
- ▽24日 第45回開園祭感謝礼拝
- ▽27日 九州4地方連合連絡協議会(Zoom)

職員の異動

(2021/7/1～9/30)

【採用】

- ▽柴田玲子(保育補助) 8/1付
- ▽小長 恵(看護師) 8/10付
- ▽宜保深里(看護師) 9/1付

【退職】

- ▽内倉明日香(看護師) 7/5付
- ▽近藤美香(看護師) 8/31付
- ▽猿渡美緒(看護師) 9/30付

# ひかり棟より

## 2021年度 なないろの会

2015年から始まったなないろの会。当初は6名ほどだったのですが、年を追うごとにメンバーも増え、今回2021年の祝賀会で10名を超える方々がなないろのメンバーとなりました。

今回のなないろの会はコロナ対策として、ひかり棟とめぐみ棟をリモートでつなぎ、第一部の式典の様子を伝えました。リモートでの式典は初めての試みでしたが、お互いの様子が良く分かり、どちらの病棟の利用者さんもトロフィーを手渡されると嬉しそうにしている姿が伝わりました。

第一部の式典の後は、第二部として各病棟での催しとなりました。

ひかり棟では今年、晴れてなないろの会のメンバーとなった由美さんの久山療育園での思い出の写真をスライドショーで楽しみました。由美さんはもちろんのこと、一緒に写っている職員や他の利用者さんの姿に「若いねー」と病棟のみんなで盛り上がりました。由美さんは写真を見るうちに色々なことを思い出したのか、少しうるうるとされていましたが、最後は病棟のみんなからの「おめでとございませう」という声にとっても良い笑顔を見せてくれました。

今年のなないろの会のテーマは「つながり」とのことです。トロフィーの旗にも書かれています。今までにない難しい世の中で、リモートという形で

両病棟がつながり、つつがなく式典を終えることができました。

これからも色々な形でたくさんつながりを大切にしていきたいと思えます。

今回、なないろの会でお祝いされたのは、ひかり棟・勝利さん、ミヨ子さん、豊さん、光男さん、由美さん、めぐみ棟・雅文さん、幸彦さん、千恵子さん、欽也さん、喜代香さんの10名の方々です。おめでとございます。これからもたくさん笑顔で元気にお過ごし下さい。

(ひかり棟介護福祉士 成尾正二)



還暦迎えました



おめでとうございます

## 「久山サロン☆」

世間では、コロナがまだまだ流行っているということもあり園外活動ができていません。少しでも利用所の皆さんの楽しみになればと8月2日に久山サロンが開かれました。その日は4人の利用者さんが参加されました。

参加される皆さんは朝からおしゃれをして準備バッチリです。何かあるのかとソワソワしている様子でした。

12時になり2階のわかすぎへ出発です！わかすぎへ行く道なりも久しぶりに病棟に出たということもありいきいきとされていきました。笑いながら向かっている利用者さんもいます。

わかすぎにつくとテーブルの上にはおいしそうなお弁当が準備されています。食べたくて手を伸ばしたり、じつとお弁当を眺めたりされています。皆さんで「いただきます」の挨拶をして食



おいそ〜♪

事のスタートです。ステーキ弁当やハンバーグ弁当・唐揚げ・ポテトを皆さんおいしそうに食べられていました。ポテトや唐揚げはおかわりもされました。

ご飯の後は、座敷の部屋に行き、椅子から降りて座ったり・寝転がったりと皆さん好きなように過ごされています。マッサージなどもされ、すごくリラックスされていました。

最後に、おやつでケーキを食べるご飯もすっかり食べた後でしたが、ケーキも残すことなくしっかりと食べていました。

利用者の皆さんの笑顔や楽しそうな表情を見れてすごくうれしい気持ちになりました。私自身も園外活動に行けたことがなくこのような経験ができてすごく楽しかったです。

(ひかり棟介護福祉士 大塚菜奈)



マッサージ気落ちいいな〜♪

# めぐみ棟より

## 「七夕」

7月7日に七夕の行事を行いました。

めぐみ棟では利用者さんは短冊を担当の職員と一緒に事前に書きました。利用者さんと担当の職員が七夕について話し合いを一緒に書くことで七夕の行事があることを知ってもらい利用者さんの願いや感じていることを知るきっかけになればと思い準備をしてきました。

今年も病棟に織姫と彦星が来て織姫チーム・彦星チームに分かれてすごろくを行いました。七夕の曲に合わせて職員と一緒にサイコロを手で持ち床に転がしたり、机にサイコロを置きサイコロのある場所まで手を伸ばしサイコロを落とし転がす利用者さんの姿がありました。

サイコロを投げて、笑顔になる様子があり、初めての司会をして緊張していた私まで笑顔になりました。

そして、チームの皆で出た目の数を口に出しながら織姫と彦星がスタート。マスのお題に沿って織姫や彦星とツーショット写真を撮ったり、じゃんけん対決をしたり、職員の願い事を聞いてみたり、ゴールに辿り着くまで様々なお題をしてゴールを目指します。すごろくがゴールすると「七夕さま」を歌い最後には笹に飾られた短冊を織姫と彦星が天の川に届けに帰りました。

七夕の日は雨が降っていましたが、皆さんの願いはきっと叶っていることでしょう。

(めぐみ棟保育士 山田梨愛)

## 夏祭り☆☆

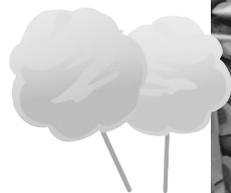
蒸し蒸し暑い時期がやってきました!!

暑い時期なので涼しいお部屋で今年度はみんなで夏祭りを開催☆

夏祭りの出店にもある、たこ焼きやチョコバナナ・お好み焼き・綿あめ・金魚釣りなどにちなんだゲームです。利用者の方一人ひとり好きなお店に行き上肢を使ってボールを転がしたり、ひもを引っ張ったりと笑顔いっぱい楽しんでる姿が見られました!

浴衣に着替えて記念撮影。最後には夏の風物詩大きな花火の映像で大歓声!!少しの時間でしたがみんなで夏祭りを楽しむことができました☆

(めぐみ棟保育士 田崎加奈子)



## 通所で頑張っています

### 「タイムカプセル活動」

去年の8月、活動の中で「未来の自分」へあてた手紙を書きました。その手紙を開ける日がやってきました!!

過去から郵便屋さんが持ってきてくれたお手紙:「1年前、どんなことを書いたかな?」とわくわくしながら封を開け、皆さんの様々な思いが詰まったお手紙を各自じっくり読まれました。

中にはその日の給食の献立や着ていた洋服などが書かれており、皆さん大盛り上がり!当時のことを思い出しながら手紙を読んだ後は、また1年後の自分に手紙を書きます。その日あった出来事や○○してみたい!など沢山のことを書きました。未来へのポストに投函。また1年後に開けるのが今から楽しみですね♪:ちなみにスタッフも書きました。

(通所介護福祉士 平山 咲)

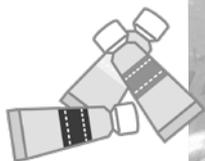


### 「展示ウォークラリーに向けて」

朝夕涼しくなり秋の深まりを感じます。今年も残念ながら開園祭が中止になってしまいました。というところで、少しでも開園祭の雰囲気を感じられるように!!との思いで、通所では展示ウォークラリーを開催することになりました!!

各曜日ご利用の利用者さんと一緒に、染物やパステル画や野菜スタンプなど様々な手法を使つての作品作りをしました。スタンプと「どんな風に描く?」「何色にする?」などと色々決めながら作業を進め、どれも素敵な作品がたくさん出来上がりましたよ。今回は日ごろの活動で利用者さんが作った作品やスタンプが作った作品も一緒に9月27日~10月10日頃まで展示します。利用者さんはもちろん、たくさんの方に作品を見て頂けたら嬉しいですね。

(通所介護福祉士 大里弘美)



# 重症者ホームひさやまより

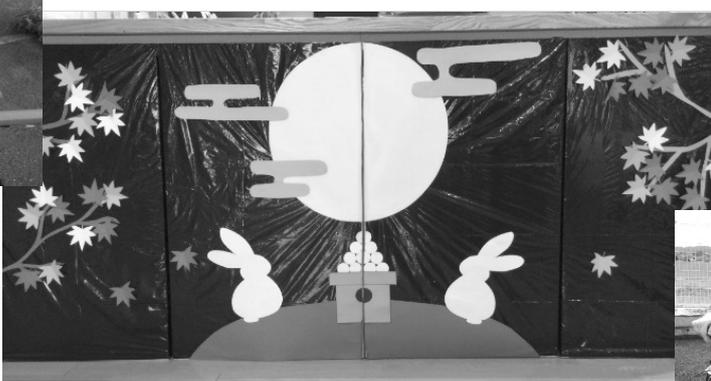
## 「お月見行事」

朝夕は次第に涼しさを感ぜられるようになった9月の下旬、重症者ホームひさやまでは、お月見の行事が行われました。

天気予報では、お月見の時間帯は雨、との予報でしたが、嬉しいことに当日、空はきれいに晴れました。『これで外に行けるね』とワクワクした表情を浮かべる利用者もおられました。お月見の為に用意した2種類の和菓子は、見て楽しめるものをコンセプトにしました。月を眺める、うさぎの意匠が凝らされた羊羹と、うさぎの形をしたお饅頭を、京都の菓匠清閑院より取り寄せました。どちらを食べるかは、あみだくじで決めましたよ。食べるのが勿体無いくらい愛らしい和菓子でしたが、利用者は大きく口を開けて、パクッと召し上がっていました。

月が顔を出すのを待つ間、私達は、沈む夕陽と、その光を受けて、一面金色に染まった稲穂を眺めながら過ごしました。実に豊かな情景に、一際明るく輝く、宵の明星も見られ、秋の夕暮れ時の美しさを感じました。スズムシやコオロギの、軽やかな合唱に耳を傾けながら、涼やかな風吹く星空の下、散歩もしましたよ。月の出が遅く、時間内に月を見ることは出来ませんでした。秋の訪れを多く感じられるひと時を、スタッフ、利用者共に過ごすことが出来ました。

(重症者ホーム生活支援員 福島有紀)



## 園内託児所 「PUPPIES」 楽しくプール遊び!!

今年で園内託児所も4年目に入りました。子供たちも毎日元気いっぱいに登園し大きな怪我や事故もなく過ごしています。6月から託児所のお部屋も広くなり子供たちも嬉しそうに毎日走り回る姿や身体をのびのびと動かして遊ぶ姿が見られています。通っている子供たちの人数も増え毎日とってもにぎやかです。

さて8月に入り暑さも本格的に厳しくなり子供たちの大好きなプールの準備がはまりました。テラスでプールの準備をしていると「プール・プール」とおしゃべりしている姿や窓越しから何か始まるのかな?とジッと見ている姿も見受けられます。1歳児さん達は初めてのプール活動でしたが水に怖がることもなく自らプールの中に入り水の感触を楽しんだりお友達との遊びをまねして遊ぶ姿が見られました。2歳児さんはダイナミックにプールに入り顔に水がかかっても平気です!!玩具を使い水の出し入れをしたり、ごっこ遊びを楽しむ姿が見られたり、お友達が使っている玩具で遊びたいときは「貸して」と言葉にして相手へ伝えたり、1歳児さんが使っていた玩具を見つけると「〇〇君のだよ、どう



ぞ!」とおしゃべりしている姿も見られました。子供たちの楽しそうに遊ぶ姿が見られてよかったです。来年も楽しみだね♪  
(託児所保育士 石橋瑛織)

# 2021年開園祭

前号でご案内しましたように、今年の「第45回開園祭」もまた、感染対策の観点からバザーや公開療育・ふれあい等を中止せざるを得ず、9月24日(金)13時30分から、地域交流ホールにおいて、ボランティアや勤続職員、ミットレーベン・ネットワークの永年に渡る支援への感謝を中心とした「感謝礼拝」が開催されました。しかし、限られた集いであっても、利用者、保護者、ボランティア、職員が一丸となり、「次年度こそは」の想いで、日々を歩む決意が示されたと感じられました。

(開園祭実行委員会)



濱崎カツエさん左 (ボランティア)



高木妙子さん (ボランティア)



職員を代表して古賀公俊さんへの  
賞状贈呈

## ボランティア 表彰者

500時間

高木妙子 梅田淳子  
五斗園子 濱崎カツエ  
様 様 様 様

## 永年勤続職員 表彰者 (敬称略)

5年 安部節子、加藤依織、金子華慧、塩川祐佳、田中和人、寺田智加子、濱田彩子、本庄友美、本多小百合、柳裕介

10年 浦見哲詞、川上敏美、齊藤未知瑠、笹倉典子、佐藤有美、田代未来、土居ひとみ、廣末美穂、安河内育子

15年 末松智子、永沼清美、山口真一

20年 高木美鈴、原田太一、山田建、横山友美

25年 古賀公俊、島津静香

## 勤続表彰者の声

### 勤続20年

めぐみ棟・ひかり棟・通所・

ホームと各部署をぐるっと回って丁度20年勤続となりました。保育士として療育活動を中心に沢山の利用者の方やご家族と関わる事が出来、とても幸せで多くの発見と学びと反省のある20年だったと感慨深く感じています。療育活動に参加して下さる一人ひとりの事を考え創意工夫と試行錯誤を繰り返しながら準備をしている時間、活動中の頑張る挑戦しようとする瞬間や満面の笑みを見られるのが私の大好きな時間です。この20年歩みを止めず前に進めてこられたのは、叱咤激励をして下さる先輩方・心置きなく話せる同僚・応援してくださる保護者の方々やボランティアの皆さん・活動に参加してくださる利用者の方々、そして家族の支えがあったからこそだと深く感じています。これからも障がいを持つ方々の笑顔や輝ける瞬間を引き出せる様に日々邁進していきたいと思っています。

(重症者ホーム保育士

原田太一)

20年勤続表彰を頂きありがとうございます。勤めていた会社を中途半端に辞め、必要な知識や技術はもちろんです、十分な覚悟もないまま入職した私は、当然のように重症児者の皆さんと接する難しさの壁にぶつかりました。利用者の方にはかなりご迷惑をおかけしたと思います。先輩方にご指導頂きながら皆さんに認めてもらおうと必死になりました。少しずつ見せてもらえるようになった皆さんの笑顔が本当に嬉しく励みになり、仕事が楽しくなってきました。皆さんに助けられ、育ててもらった、と思っています。あらためて感謝の思いです。

今回、そんな原点を思い返す機会にもなりました。ありがとうございます。頂けている役割に感謝し今後も最善を尽くしたいと思います。

(地域療育部相談支援専門員 山田 建)

人生の半分は久山と共に歩んできました。病棟で5年子育てをしながらの三交代、そして事務所に異動になり、4人の子供たちに励まされながら、早くも20年が経ちました。利用者様、保護者様、ボランティアさん、職員の皆様に温かい言葉をいただき支えられました。これまでたくさんの方に出会えた奇跡に感謝でいっぱい

す。これからも共に歩み、笑顔と感謝を忘れず咲かせたいと思います。自分流幸せの花を。

(事務員 横山友美)

## 勤続15年

2006年に入職して、もう15年も経ったんだなと感じています。10年を過ぎたときは、とうとう10年経ったかと、時間の長さを実感したのを覚えていますが、それから5年経つのは早かったように思います。この5年間はグループホームで勤務していますが、入居者はもちろんご家族との関りが多くなり、ご家族の思いに触れるたびに、自分もその視点から接することが出来ているかな、ご家族の思いにこたえられているかなと、自分を律し続けあつという間に時間だけが過ぎたように感じます。これからもご家族の思いにこたえられるように日々を積み重ねていきたいと、この文章を書きながら思いを新たにできました。

(重症者ホーム療育主任

サービス管理責任者 山口真一)

## 勤続10年

振り返るとあつという間の10年でした。私が入職させて頂いた時

は、診療部は理学療法士は居らず、作業療法士と言語聴覚士のみでした。その当時の私の経験年数は5年目でしたが、分からないことも多く、利用者様方へ何が出来るのか悩んだ記憶があります。その際、先輩方からのご指導や利用者様からの学びがあり、現在を迎えることが出来ました。約10年経過しましたが、まだまだ分からないことが多くあります。しかし、それが重症心身障害児者のリハビリテーションの魅力だと思います。利用者の個性・年齢・環境、それぞれの数だけ、目的・介入があります。今後一人一人に合わせた関わりができるように、日々学びを深めていきたいと思えます。

(理学療法士 川上敏美)

この度は10年勤続にて表彰して頂き、誠にありがとうございます。入職当初は重症心身障害(児)者の看護は未経験で不安と緊張からのスタートでした。しかし、利用者様との日々の関わりの中で沢山の元気をもらい、業務でも多くの人たちに支えられ仕事に慣れていったのを覚えています。現在、コロナ禍で大変な時期ではありますが、少しでも利用者、そして保護者の皆様の方になれる様に業務に精励する所存にございます。今後

(めぐみ棟看護師 浦見哲詞)

この度は、10年勤続の表彰をいただきましてありがとうございます。勤続10年を迎えることができましたのも皆様のおかげと感謝しております。日々の生活や療育活動において利用者様から元気やパワーをもらっています。利用者様の笑顔や反応は、私にとって大切な宝物です。この10年間で沢山の方々より多くのことを学ばせていただきました。まだまだ学びは足りませんが今後も初心を忘れずに、頑張っていきたいと思えます。(ひかり棟介護福祉士

齊藤未知瑠)

家族の皆様、職員の皆さま、いつもお世話になっております。このたび勤続10年を迎えることになりました。2011年に入職し、今日まで多くの先輩の皆さまに支えて頂きました。今までの出来事を振り返ると、入職して直ぐに東北の方で大きな地震があり、九州では何度も集中豪雨に襲われ多くの犠牲がでました。現在は、未知のウイルスと日々対応に追われ、落ち着かない10年でした。そんな中で何

度も失敗を繰り返して来ましたが、先輩方に失敗をカバーして頂いたり、アドバイスを頂いたり本当にお世話になりました。また、辛い中で利用者の皆様の笑顔に何

来、今まで続けることが出来たのだと思います。失敗を生かせなかったこともありましたが、暖かいご支援を頂き感謝しております。今後もいつその努力をしています。たいと思えますので、変わらぬご指導をお願いいたします。(重症者ホーム介護福祉士

田代未来)

## 勤続5年

この度は5年間勤続表彰をいただきましてありがとうございます。学生の頃、ひかり棟で実習させていただいたことがきっかけで久山療育園へ入職しました。この5年間はあつという間で、利用者

さんを学ばせていただいています。時には辛い出来事もありますが、利用者さんと関わることで元気をもらっている場面が多くあり、久山療育園で働けていることにとても感謝しています。これからも利用者さんが充実した生活をおくることのできるよう精一杯看護を行っていきたくと思えます。

(めぐみ棟看護師 加藤依織)

このたびは5年表彰いただきありがとうございます。

早いもので、2015年5月から医事課の週20時間パート職員と

して入職し、同年10月からフルタイム職員として総務に異動して6年の月日が経ちました。それまでは熊本で働いており、次の就職先が決まっておらず不安に思っていたところ、元職場でお世話になった方から久山療育園を紹介していただきました。息子はワークキャンプに何度も参加させていただいており、再開を待ち遠しく思っているところ。多くの方々からのお祈りやお支えをいただいていることに心から感謝しております。今後も設立理念や創立聖句を念頭に置き、よき働きができるよう尽力しますので、どうぞよろしくお願いたします。

(事務員 安部節子)

『いつもそんなに気を張っていて大丈夫?』と入職当時から言われました。笑顔を見せてもらえました。声を掛けてもらえました。頼ってもらえました。名前を呼んでもらえました。5年間、たくさん感謝することが積み重なっていききました。日々、施設に携わる人から受けたことへの恩返しです。事務が担う責務に、懸命に挑む毎日です。久山療育園の歴史を繋げていく為、自分の役割として出来ることを最大限に活かし、頑張らせて頂きます。

(事務員 田中和人)

## ボランティアだより

緊急事態宣言発出に伴い、ボランティア活動が中止となつて早二ヶ月。ボランティアの皆さんのお姿が見られない中、行っているボランティア委員会の取り組みについてご紹介します。

今年目標は、①ボランティアの方々とつながりを持ち続ける②ボランティアの方々にこれまでの感謝を伝える：等です。

活動中止中も、皆さんからの熱い想いを受け、在宅ワーク（裁縫や活動用の制作物など）のやり取りをさせていただいています。まだまだ、足りないことばかりですが、「私たちに何ができるのか」を考えているところです。

今後は、中々会えない状況でも「つながる」ことができなにかを検討していきたいと考えています。

活動中止の期間中も、多くの方からお電話やお問い合わせをいただきました。本当にありがとうございます。受け入れができませんでした。残念でしたが、再開した時のために、私たちは皆さんの想いに

こたえられるよう準備してお待ちしておりますので、これからも宜しくお願いいたします。

(ボランティア委員会  
陣内晶子)

## 【専用メールアドレス】

ボランティアに関するお問い合わせの方法として、専用メールがございます。

「興味があるけど、どんなことするのか心配…」

「行ってみたいけど、手続きは？」など、

いつでもご質問いただけるようになっています。

お気軽にご利用ください。

[bora@hisayama-smid.jp](mailto:bora@hisayama-smid.jp)

## 編集後記

「愛の手を」の担当を終えて

本号では、勤続20年をはじめてとする勤続職員からのコメントがたくさん寄せられましたが、これまで、教会をはじめとする関係者の皆様や法人役員、職員などから多大なご協力を頂き毎号の紙面を編集する仕事に、とても大きな喜びを感じてきました。

どの記事の根底にも、久山療育園設立以来の『最も弱い立場の人に寄り添う』という祈りや決意や証しを常に確認する事ができたからです。『変わってはいけないものがあるなら、紙面を通じてそれらを守りたい』、と願いながら編集を続けつつ、私自身も入職後丸15年を迎え、この度退職する事となりました。事務部長、事務部長、法人事務局課長と職制は変わっても、「愛の手を」の制作は常に業務の中心に有り、お支えにより発行をして参りましたが、本号が最後の担当となりました。いつも心からの原稿を寄せて頂きました皆様に深く感謝申し上げます。今後も久山療育園が持ち続けてきた、変わらない大事なものが、この紙面を通じて守られていきますよう願っております。

(法人事務局担当課長  
広報出版委員長 馬原哲治)

## 歩行器

今年の第45回開園祭はコロナ禍の中、昨年に引き続き感謝礼拝のみとなり、出席者を制限しました。例年開園祭を楽しみにされている入所者のご家族の方々、ボランティア、教会関係者、近隣住民の方々のことを思うと、大変残念な思いがします。

宮崎理事長は感謝礼拝プログラムの中で設立聖句から「見えないものに目を注ぐ。見えないものは永遠につづくのである」と記され、「難難の中にあつても落胆せず新しく生きることが赦されている」とも述べられています。

45年前に多くの方々の熱い祈りと共に設立された園のこれまでの歩みを心から感謝し、お祝いすることができました。

8月20日から福岡県では緊急事態宣言が出され、第5波のピーク時では一日の感染者数が1,253人となり大きな不安をおぼえました。その中で、8月中旬、園では職員に対し第5回目のPCR検査を実施しましたが、今回も全員陰性で胸を撫でおろしました。

今後園から感染者が出ないようにと感染予防対策を徹底して実施していきたいと考えています。

園では感染防止対策として、業者の病棟への立ち入りを止めています。そのため、これまで入所者の方々の散髪・理髪を依頼していた二業者の立ち入りも1年半近く止めています。

現在、男性は月一回、女性は2カ月に一回から二回の割合で入所者の方々の散髪・理髪を介護職員が行っています。担当職員は「髪が伸びると暑いだろうと思うし、散髪すると入所者の方もスッキリします。入所者の方と共に笑顔になります」と述べています。

10月15日現在、入所者からコロナ感染者は出ていません。多くのスタッフの日々の働きによって守られていると思います。その後ろには多くの方々のお祈りと共に、神様の大きなお守りがあることを感謝しています。

(H・N)